

# 事業報告書

令和4年度

自 令和 4年4月 1 日

至 令和 5年3月31日

地方独立行政法人佐世保市総合医療センター

## 目 次

<b>1 現況</b> .....	3
① 法人名 .....	3
② 所在地 .....	3
③ 役員の状況 .....	3
④ 設置・運営する病院.....	3
⑤ 職員数 .....	3
<b>2 基本的な目標</b> .....	3
<b>3 事業の総括</b> .....	5
<b>4 中期目標の大項目ごとの特記事項</b> .....	5
(1) 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組 .....	5
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組 .....	5
(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組 .....	5
<b>5 中期目標の項目別の状況</b> .....	6
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 .....	6
1 地域完結型医療の推進 .....	6
2 提供する医療サービスの充実.....	6
(1) 救急医療.....	6
(2) がん医療.....	7
(3) 小児・周産期医療.....	7
(4) 高度専門医療 .....	8
(5) 政策医療 .....	8
3 医療人育成体制の充実 .....	10
(1) 医師の研修制度の充実 .....	10
(2) 看護師・薬剤師をはじめとする医療従事者の育成の充実.....	11
4 医学研究の推進 .....	13
5 医療の質の向上 .....	13
(1) 施設、設備の充実 .....	13
(2) 医療従事者の確保 .....	13
(3) 患者サービスの向上 .....	14
(4) 安全性の高い信頼される医療 .....	15
6 情報提供の充実 .....	16
(1) 分かりやすい保健・医療の情報発信.....	16
(2) 病院情報の公開.....	16

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	16
1 法人管理運営体制の確立	16
(1) 適正な法人管理体制の構築	16
(2) 効率的な病院運営	16
2 経営管理人材の育成	16
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	16
1 経営基盤の確立	16
2 適正な収益と費用	17
(1) 適正な収益	17
(2) 適正な費用	17
第5 その他業務運営に関する重要事項	19
1 地域医療医構想の実現に向けた取組み	19
2 働き方改革の推進	19
3 新興・再興感染症への対策と対応	19
<b>6 その他佐世保市地方独立行政法人法の施行に関する規則で定める事項の実施状況</b>	19
(1) 人事に関する計画	19
(2) 施設及び設備に関する計画	19
(3) 法第40条4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画	19

「地方独立行政法人佐世保市総合医療センターの概要」

**1 現況**

(1) 法人名

地方独立行政法人佐世保市総合医療センター

(2) 所在地

佐世保市平瀬町 9 番地 3

(3) 役員の状況（令和5年3月31日現在）

役職名	氏名	備考
理事長	増崎 英明	院長
副理事長	神崎 良平	副理事長
理事	永安 武	長崎大学理事
理事	宮原 明夫	佐世保市医師会会長
理事	瀬戸 牧子	長崎県医師会常任理事
理事	西村 伊知恵	長崎県看護協会会長
理事	立石 憲彦	長崎県立大学看護学科教授
監事	西村 浩太郎	税理士
監事	渡会 祐二	弁護士

(4) 設置・運営する病院

別表のとおり

(5) 職員数（令和5年3月31日現在）

851 人（正職員）

**2 基本的な目標**

「地域の基幹病院として高度な医療を総合的に提供するとともに明日を担う医療人を育成する」という理念のもと救急医療、がん医療、小児・周産期医療、高度専門医療、政策医療を医療の5本柱とし、地域医療機関との連携及び役割分担のもとで、地域の医療の質の向上に寄与していく。地方独立行政法人制度の特徴を生かし、最大限の努力による住民・患者へのサービスの向上と効率的な病院運営を行う。

## 別表

病院名	佐世保市総合医療センター	
所在地	〒857-8511 長崎県佐世保市平瀬町 9 番地 3	
設 立	平成 28 年 4 月 1 日	
病床数	総数 594 床（一般病床 570 床、結核病床 20 床、感染症病床 4 床）	
診療科目（31 科）	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ科、緩和ケア内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、脳神経外科、心臓血管外科、小児科、産婦人科、形成外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、救急集中治療科、麻酔科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、歯科	
離島診療所	宇久診療所（病床数 17 床）、黒島診療所、高島診療所	
主な役割と機能	佐世保県北医療圏における基幹病院 ●救命救急センター ●臨床研修指定病院 ●救急告示病院 ●地域医療支援病院 ●地域がん診療連携拠点病院 ●地域周産期母子医療センター ●災害拠点病院 ●高次脳卒中センター ●エイズ治療拠点病院 ●がんゲノム医療連携病院 ●各学会認定研修病院 ●ISO15189 認定施設（臨床検査室） ●病院機能評価（公益財団法人日本医療機能評価機構）3rdG:Ver.1.1	
敷地面積	<b>【病院施設】</b> （本院） 22,893.66 ㎡ （宇久） 1,918.00 ㎡ （高島） 239.27 ㎡	<b>【公宅関係】</b> （本院） 2,727.86 ㎡ （宇久） 740.00 ㎡ （黒島） 105.00 ㎡
建物規模	<b>【病院関係】</b> （本院） 38,493.79 ㎡ （宇久） 1,406.51 ㎡ （高島） 100.75 ㎡	<b>【公宅関係】</b> （本院） 1,742.75 ㎡ （宇久） 258.10 ㎡ （黒島） 69.56 ㎡

### 3 事業の総括

新型コロナウイルス感染症の影響は、令和 3 年度と比べて徐々に少なくなっているものの、コロナ禍以前の状況には回復していない。そのような中で、佐世保県北医療圏における唯一の救命救急センターとしての役割を果たすため、救命医確保の取組みを行い、新たな救命救急専門医を採用するなど、救命救急センターの体制強化に努めた。

また、患者の医療情報を有効に活用して、安心・安全でより良い医療を提供していくための医療 DX の基盤となるものである、オンライン資格確認の運用を開始した。

政策医療においては、離島医療として宇久診療所、黒島・高島診療所にそれぞれ常勤医師を確保し、離島医療の維持に努めた。

感染症医療については、令和元年度より設置している新型コロナウイルス感染症専用病棟の運用を継続し、中等症以上の新型コロナウイルス感染症等患者の受け入れを行った。

医療人の育成については、コロナ禍においても医学生 31 名、看護学生 302 名、薬学生 3 名、その他の医療関係職種として 21 名の臨床実習の受け入れを行うとともに研修医 25 名の教育を行った。

働き方改革の推進については、2024 年度の医師の時間外規制適用に向けた取り組みとして、医師の時間外勤務等を把握するための管理システムを導入した。また、適宜会議等を開催し、多職種のタスクシフティング・シェアリングの推進や、宿日直許可申請を行うなどの対応を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響は続いているものの、診療報酬改定に伴う新たな施設基準の取得に向けた取り組みを行うなど、収入の確保に努めた。

### 4 中期目標の大項目ごとの特記事項

#### (1) 住民に対して提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組み

地域完結型医療の推進については、地域連携センターが中心となり、地域のかかりつけ医や病院等との連携を推進し、紹介率・逆紹介率ともに高い水準を維持することができた。救急医療については通常の三次救急医療機関として重篤患者を受けつつ、重症の新型コロナウイルス感染症患者についても受け入れを行った。

#### (2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組み

地方独立行政法人となって 7 年目を迎え、理事会、経営会議、経営戦略会議による法人としての意思決定機能が十分に発揮され、また、内部統制の整備・確立のため、業務方法書に従い、管理体制強化に努めた。

#### (3) 財務内容の改善に関する事項への取組み

新型コロナウイルス感染症も収束の兆しが見えつつあるが、患者数はコロナ禍以前の状態までは戻っていない。その影響が続く中で、収益面では在院日数の短縮や新たな施設基準の取得等により診療単価を伸ばした。また費用面においても、原材料費や光熱水費等が高騰している中で材料費等の価格交渉と経費削減に努めることで、医業収支では前年対比で増収・増益となった。また、今年度も国・県からの病床確保に対する補助金を受け、経常収支では利益を計上した。

全体会議等において毎月の経営指標の現状説明を行い、方針及び状況を共有することで、経営改善のための意識付けを行った。

## 5 中期目標の項目別の状況

### 第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 地域完結型医療の推進

地域連携については、コロナ禍においても地域の基幹病院として、紹介患者、三次救急、コロナ重症患者の受入れなど地域での役割を果たしつつ、地域への逆紹介を推進し、昨年度より実績を伸ばすことができた。地域の医療従事者対象の研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により集合型の研修が計画どおりに実施できない場合もあったため、回数は目標に達しなかった。しかし、開催方法を工夫したことで、参加人数については実績を伸ばすことができた。

紹介率等連携推進関係	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
紹介率 (%)	86.2	90.0	88.9	▲1.1
【地域医療支援病院要件 65%以上】				2.7
逆紹介率 (%)	107.2	100.0	108.9	8.9
【地域医療支援病院要件 40%以上】				1.7
あじさいネットカルテ閲覧件数 (件)	3,660	3,500	4,108	608
				448

地域医療従事者対象の研修会	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
研修会総数 (回数) 人数)	(16)	(20)	(17)	(▲3)126
【地域医療支援病院要件年 12回以上の開催】	705	750	876	(1)171
地域医療研修会	(6)	(5)	(6)	(1)61
	266	250	311	(0)45
救命救急・脳卒中勉強会	(7)	(10)	(9)	(▲1)106
	353	400	506	(2)153
がん関係研修会	(3)	(5)	(2)	(▲3)▲41
	86	100	59	(▲1)▲27

### 2 提供する医療サービスの充実

#### (1) 救急医療

救急車・ヘリ搬送件数については、目標値をやや下回ったものの、前年度よりも増加した。また、救急車・ヘリ搬送件数の増加に伴い、入院となった症例についても目標値及び前年度実績を上回る実績となった。佐世保県北地域の三次救急医療機関としての役割を担いつつ、新型コロナウイルス感染症が疑われる救急患者の受入れを行っていくことで、初期・二次救急医療機関、救急隊及び行政等との連携強化及び役割分担を推進した。

救命救急患者搬送件数	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
救急車・ヘリ搬送【受入】件数（件） 【救命救急センター要件 救急搬送受入数年1000回以上】	3,123	3,300	3,241	▲59
				118
救急車・ヘリ搬送【入院】件数（件）	2,094	2,100	2,142	42
				48
救急車・ヘリ搬送以外の救急患者【受入】件数 （件）	2,634	3,000	2,777	▲223
				143
救急車・ヘリ搬送以外の救急患者【入院】件数 （件）	874	900	884	▲16
				10

### (2) がん医療

質の高いがん医療を提供することができるよう体制の維持に努め、地域がん連携拠点病院の認定更新を行った。

「がん相談支援センター」を中心として、がんに関する病気の情報提供や相談にも引き続き積極的に取り組んだが、R3年度に引き続きコロナ禍において相談に来る患者が減少し、相談件数は減少した。

がん関係件数 ※がんに関する数値は、年単位で記載	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年との差
がん入院患者数（実人員）（人）	2,590	3,200	3,654	454
				1,064
悪性腫瘍手術件数（件）	1,336	1,400	1,440	40
				104
放射線治療管理料件数（件）	582	600	594	▲6
				12
外来化学療法件数（件）	1,111	1,200	1,149	▲51
				38
がん相談件数（件）	942	1,200	879	▲321
				▲63

### (3) 小児・周産期医療

周産期医療については、新型コロナウイルス陽性となった妊婦の分娩に対応するなど、ハイリスク妊娠・分娩への対応を行った。小児医療では、引き続き9名の小児科医の配置を維持し、地域の周産期・小児医療への貢献に努めた。



小児・周産期医療関係	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
正常分娩件数（件）	8	20	2	▲18
				▲6
異常分娩件数（件）	258	250	304	54
				46
NICU 病床稼働率（%）	94.8	95.0	87.8	▲7.2
				▲7.0
小児病棟（GCU 含む）病床稼働率（%）	41.4	55.0	41.6	▲13.4
				0.2

#### (4) 高度専門医療

R3 年度に導入したロボット支援下手術については、同日に 2 例実施するなど効率的に活用したことにより、導入 2 年目で 234 件と前年度を大きく上回った。また、新たな手術に関する施設基準を満たしたことにより、対応可能な手術が増えたことで、全体の手術件数増加の一因となった。その他、がん遺伝子パネル検査については、消化器外科の件数が増加したこともあり、目標を大きく上回った。

手術・検査・処置件数等	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
手術件数（件）	5,090	5,300	5,475	175
				385
うち胸腔・腹腔鏡件数	1,258	1,200	1,325	125
				67
うちロボット支援下手術件数	99	110	234	124
				135
がん遺伝子パネル検査数（件）	42	25	54	29
				12
全身麻酔件数（件）	2,676	2,600	2,899	299
				223
MRI 撮影件数（件）	6,851	6,500	7,074	574
				223
CT 撮影件数（件）	25,744	25,000	27,705	2,705
				1,961
消化器内視鏡検査・処置件数（件）	5,084	5,000	5,254	254
				170
気管支鏡検査・処置件数（件）	319	300	370	70
				51
血管造影・血管内治療件数（件）	1,399	1,400	1,142	▲258
				▲257
人工透析件数（件）	3,336	3,500	3,577	77
				241

#### (5) 政策医療

救急医療をはじめとする地域に不可欠な医療を提供するため、関係機関と連携・協力し、公的病院として地域の安全・安心につながる医療環境を維持した。目標値（患者数）以外の具体的な取組事項に関する実績は次のとおり。

（救急医療に関する事項）

- ・救命救急センターの運営については、救急隊及び初期・二次救急医療機関との連携強化を図り、救急医療に必要な体制を整備し、安定的な稼働を維持した。
- ・収入736,672千円/支出1,033,524千円（収支不足296,852千円）

（周産期医療に関する事項）

- ・地域の産科医と連携し、地域周産期母子医療センターとして、新型コロナウイルス感染症陽性患者の妊娠・分娩など、ハイリスク患者に対する対応を行った。
- ・収入334,405千円/支出338,185千円（収支不足3,780千円）

（離島医療に関する事項）

1) 宇久診療所（一般17床）

- ・新型コロナウイルス感染症への対応として、専用の診察室を設け、島内で診療を行うことができる体制を維持した。
- ・更新計画に基づいた医療機器等の更新を行った。
- ・収入200,396千円/支出363,130千円（収支不足162,734千円）

2) 黒島診療所

- ・常勤医師を確保し、診療体制を維持した。また、インターネットの接続に光回線を利用することが可能となったことで、診療でインターネットを使用する際やweb会議等の安定稼働に繋がった。
- ・外来患者延数1,578人、収入26,890千円/支出34,081千円（収支不足7,191千円）

3) 高島診療所

- ・黒島診療所の常勤医師の対応により、定期的（毎週火曜日）な診療体制を維持した。
- ・外来患者延数453人、収入4,699千円/支出5,760千円（収支不足1,061千円）

（結核病棟運営に関する事項）

- ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症の病床確保のため、結核病棟は新型コロナウイルス感染症の専用病棟として使用した。また、結核患者が発生した場合に、感染症病床(4床)で受け入れを行うための体制整備を行った。

（感染症医療に関する事項）

- ・新型コロナウイルス感染症の病床確保要請に合わせ、14～24床を確保し、重症・中等症の患者を中心に受け入れた。国・県より病床確保に対する補助金として1,461,177千円を受けた。
- ・収入2,105,739千円/支出638,819千円

（新型コロナウイルス感染症の対策に関する事項）

- ・今年度は保健所からの受診や入院の要請に応えるとともに、535名の入院患者受け入れを行った。
- ・これまでと同様に、地域の重症・中等症の患者を受け入れ、関係機関と協力しながら地域の安全・安心のための公的病院としての役割を担う。

（災害医療に関する事項）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により災害医療訓練は中止となったが、課単位の小規模な訓練としてアクションカードを使用した火災訓練等の実施を行った。また、災害拠点病院の認定基準の見直しで必要とされる水量の確保を行った。
- ・備蓄材料の経費（備蓄食糧費2,647千円）

離島・感染症患者数	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
宇久【入院】延患者数（人）	3,347	3,103	3,303	200 ▲44
宇久【外来】延患者数（人）	15,516	16,524	14,924	▲1,600 ▲592
黒島【外来】延患者数（人）	1,478	1,500	1,578	78 100
高島【外来】延患者数（人）	420	370	453	83 33
結核【入院】延患者数（人）	0	0	0	0 0
新型コロナウイルス感染症延患者数 ※	2,414	—	4,184	—

※ 新型コロナウイルス感染症患者受け入れ患者数を参考として記載。

### 3 医療人育成体制の充実

#### (1) 医師の研修制度の充実

医学生実習は、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、長崎大学等との連携により、積極的に受入れを行い、前年度を超える受入れ実績となった。

基幹型臨床研修医と協力型臨床研修医では、募集定員を若干下回ったものの、昨年同様県内でもトップレベルの受入れ数となった。

##### ① 学生教育の充実

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響がある中、感染対策の上積極的な受入れを行った。また、受入れた学生の教育については十分に対応できた。

医 師	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
医学生実習受入数（人）	26	30	31	1
				5

##### ② 研修医育成

令和4年度はこれまでの研修体制を継続し、基幹型19名、協力型6名の受入れができた。

医 師	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
基幹型臨床研修受入数（人）	21	28	19	▲9
				▲2
協力型臨床研修受入数（人）	6	8	6	▲2
				0

##### ③ 専門医育成

新専門医制度による研修プログラムに対応し、基幹型4プログラム、連携型15プログラムと目標値を維持することができ、各診療科にて育成に取り組むことができた。

医 師	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
専門研修プログラム数（基幹施設）	3	4	4	0
				1
専門研修プログラム数（連携施設）	15	15	15	0
				0

#### ④医師を対象とした研修会の開催

新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、各種研修会については、web形式も実施するなど参加者の確保に努めた。

医 師		令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差 前年度差
各種研修会参加者（人）	地域	8	50	83	33
					75
	院内	64	100	53	▲47
					▲11

#### (2) 看護師・薬剤師をはじめとする医療従事者の育成の充実

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、若干目標を下回ったものの資格取得や院内外の人材の育成に積極的に務めた。

##### ①医療従事者の育成

コロナ禍での行動制限等を考慮し、感染対策を講じた上で、専門・認定看護師の育成をはじめとした資格取得を推進し、特定行為研修を修了した看護師数については目標を超え、他も目標に近い実績を上げることができた。長崎県看護キャリア支援センターに当院看護師を講師として派遣し、地域看護師人材の育成に貢献できた。

専門資格取得者	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差 前年度差
【看護師】認定看護管理者（人）	1	1	1	0
【看護師】特定行為研修を修了した看護師（人）	5	5	7	2
【看護師】専門・認定看護師（人）	18	19	18	▲1
【薬剤師】専門・認定薬剤師（人）	10	12	11	0
【その他の医療技術者】専門・認定医療技術者（人）	77	80	76	▲1

研修受入・派遣	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差 前年度差
長崎県看護キャリア支援センター講師派遣者（人）	5	10	4	▲6
				▲1

## ②学生実習の充実

看護師や医療技術職の学生の積極的な受入は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、医療技術系学生で目標を大きく下回った。市立看護専門学校への講師派遣は、院内からのリモート講義の導入により、目標が達成できた。

受入実績	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差	
				前年度差	
看護学生（人）	227	300	302	2	
				75	
薬学生（人）	3	4	3	▲1	
				0	
医療技術系学生（人）	29	30	17	▲13	
				▲12	
医療事務系学生（人）	2	5	4	▲1	
				2	

市立看護専門学校講師派遣人数	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差	
				前年度差	
医師（人）	36	35	36	1	
				0	
看護師（人）	15	15	13	▲2	
				▲2	
薬剤師（人）	0	1	0	▲1	
				0	
その他の医療技術者（人）	2	5	2	▲3	
				0	

## ③中学・高校生向けの体験・見学の充実

中学生や高校生の病院見学については、新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止となったが、感染が落ち着いた時期に行うことができ、前年度を上回る学生を受け入れることができた。

受入人数	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差	
				前年度差	
高校生（人）	0	30	32	2	
				32	
中学生（人）	0	10	3	▲7	
				3	

#### 4 医学研究の推進

国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」に従い、規則の逸脱、違反することなく全ての治験を実施した。

活動内容についても、引き続きホームページで情報の発信を行った。

日本医師会治験促進センターに施設登録を行い、治験に関する情報収集に努め、医師へ情報を提供する等、新型コロナウイルス感染症の状況下においても、適宜研究活動の推進を支援した。

医学研究関係	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差	
				前年度差	
治験新規契約件数（件）	1	1	0	▲1	▲1
				▲2	1
治験継続契約件数（件）	4	7	5	▲8	▲4
				▲1	▲1

#### 5 医療の質の向上

##### (1) 施設、設備の充実

高度な水準の医療を提供できる環境を整備するため、投資計画に基づき照明器具改修（LED化）、衛生設備主管改修等を実施した。また、血管造影装置、放射線部門管理システム等の医療機器更新を行い、基幹病院としての医療機能を整備した。さらに院内ネットワークシステムの改修により患者用Wi-Fiを整備するなど、療養環境の整備も行った。

##### (2) 医療従事者の確保

人材確保については、コロナ禍において開催が減少した対面での就職説明会が徐々に開催されたため積極的に参加を行った。WEB 説明会参加や動画配信についても積極的に行うとともに、WEBでの採用試験実施など、受験機会の確保に努めた。

看護師・薬剤師においては必要数に届いていないものの、一定数の確保ができた。

また、働き方改革の一環として、医師や看護師のタスクシフトを進めるため、看護補助者や医師事務作業補助者の処遇改善等により、必要人員の確保に努めることができた。

離島医師においては、定期的に訪問を行う等、現在充足している医師数の維持に努めた。

人員数	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差	
				前年度差	
医師（人）	158	163	162	▲1	4
				▲23	▲1
看護師（人）	590	612	589	▲3	1
				▲6	▲2
薬剤師（人）	22	26	23	▲14	▲1
				▲1	▲1

※非常勤職員含む

### (3) 患者サービスの向上

例年、高い割合の患者満足度を維持しており、令和4年度においても患者が安心して医療を受けることに貢献できた。

#### ①患者中心の医療の提供

院内の各種委員会、プロジェクトチーム等で検討された事項を、月1回の全体会議を通じて、院内で共通認識し、課題改善に取り組んだ。

患者の抱える様々な問題に対し、多職種によるカンファレンスを行い、それぞれの立場から専門的視点で検討し、治療方針、援助方針を立てた。また、その方針の実現に向け、異なる職種のメディカルスタッフによるチーム医療を実践し、それぞれの専門スキルを活かすことで、入院中や外来通院中の患者の生活の質の維持、向上を目標に療養のサポートを行った。

#### ②快適性の向上

令和4年度においても、外来患者、入院患者に対して患者満足度調査を行った。目標には届かなかったものの、前年度の評価から改善されている。アンケート結果については職員で共有し、院内の療養環境の改善や患者サービスの提供に努めた。また必要に応じて院内施設の改装等を行い、院内の療養環境の改善に努めた。

#### ③患者からの相談に対する対応の充実

総合相談窓口に看護師、がん相談員、医療ソーシャルワーカーを配置し、患者さんが安心して医療を受けることができるよう、医療相談・福祉相談・退院調整等にきめ細やかな対応を行うよう取り組むことができた。

#### ④職員の接遇改善

職員の接遇の一層の向上のため、院外講師を招き、全職員対象とした接遇研修を実施した。内容についてもコロナ禍におけるコミュニケーションについての研修を実施し、状況に応じた接遇の強化に努めた。また、コロナの影響により集合研修ではなくWEB研修とEラーニングによる研修とし、参加率の向上に努め、参加者の満足度も高く、有意義な研修会を開催することができた。また、患者からの接遇に対する指摘については、職員に周知し改善に取り組んだ。

#### ⑤ボランティアとの連携

コロナ禍においてボランティア活動は実施できなかった。

患者サービス関係		令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差 前年度差
		患者 満足度	5段階評価（平均値）	4.3/5.0	4.2/5.0
満足した人の割合(%)	88.5		87.5	87.0	▲0.5 ▲1.5
不満な人の割合(%)	1.5		2.0	2.0	0
					▲0.5

患者相談件数（がん相談除く）（件）	6,149	6,000	7,054	1,054
				905
職員接遇研修参加率(%)	72.7	80.0	91.2	11.2
				18.5

#### (4) 安全性の高い信頼される医療

医療安全、院内感染対策研修会受講率は、目標値達成に向けて、Web等を活用した取り組みを実施した。

##### ①医療安全対策の充実

医療安全部門については、医療安全管理者養成研修を修了した医師 3 名、看護師 3 名、薬剤師 1 名と多職種連携による医療安全管理体制の強化に努めた。

また、毎月開催している医療安全委員会に顧問弁護士も参加し、専門的な助言等を参考に対策を講じることができた。医療安全研修会の受講率は、目標値の 100%を目指し、職種別の受講率を算出するなど、受講率に対する意識付けを強化した。また、個別の働きかけも継続して行い、98%と高い受講率であった。

##### ②院内感染対策の充実

院内感染対策講習会受講率については、令和 4 年度は目標を下回ったものの 98%と高い受講率であった。

新型コロナウイルス感染症の対策として、結核病棟を感染対策専用に移したことによる、新型コロナウイルス感染症等患者の受入れを継続するにあたり、必要な感染防止対策を行った。

また、オミクロン株の蔓延による院内クラスターが発生したが、感染制御チームが中心となって対応を行い、診療への影響を最小限に抑えた。院内・外の感染流行状況については、毎週対策会議を行い、状況に応じた感染対策の実施や行動規範の改定及びその周知に努め、情報共有を行いつつ、院内の感染対策状況の確認のためラウンドチェックを継続して行い、感染対策の強化に努めた。

##### ③患者中心の医療の実践

診療録（カルテ）等の個人情報の保護並びに情報開示については適切に行うことができた。また、手術処置等の説明を行う際の、説明書・同意書の整備を行った。施設基準の届出や医療法に係る手続きについても関係法令を遵守し適正に実施できた。

医療安全・感染対策	令和 3 年度 実績値	令和 4 年度 目標値	令和 4 年度 実績値	目標値差
				前年度差
医療安全研修会受講率(%)	99.0	100	98.0	▲2.0
				▲1.0
院内感染対策研修会受講率(%)	99.0	100	98.0	▲2.0
				▲1.0



## 6 情報提供の充実

### (1) 分かりやすい保健・医療の情報発信

住民に対して、病院の情報や病気に関する情報をタイムリーにホームページで伝え、より分かりやすい情報として広報紙等を活用して提供した。

市民向け講演会は、新型コロナウイルス感染症を考慮し、YouTube での動画配信を行ったことにより、視聴数は目標を上回り、昨年度実績から大きく伸ばすことができた。

市民向け講演会	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
市民向け講演会（回数）人数	(17) 1,237	(12) 900	(7) 23,353	(▲5)22,453 (▲10)22,116

### (2) 病院情報の公開

疾病統計やDPCデータによる情報の公開をはじめとした臨床指標について、ホームページにより情報提供を行っている。疾病統計については英語表記でも情報提供を行っている。

## 第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 法人管理運営体制の確立

#### (1) 適正な法人管理体制の構築

定期的に理事会を開催し、診療実績や財務状況報告を行い、運営状況を確認しながら、法人全体での事業目標達成に向けて取り組んだ。

また、監事監査、契約監視委員会に加えて、内部監査を実施し、内部統制の推進に努めた。

#### (2) 効率的な病院運営

経営戦略会議、経営会議を踏まえ、理事会を通じて、法人運営に関する重要事項の決定を円滑に進め、診療報酬の加算や働き方改革に繋がる人材確保や設備投資など、迅速かつ柔軟性のある予算執行を行い、効率的かつ効果的な事業運営を行った。

### 2 経営管理人材の育成

新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても、外部の専門研修等への職員の積極的な参加を奨励し、研修機会の確保と人材育成に努めた。また、院内研修においては対面集合という形の開催がまだ厳しい状況であったため、WEB形式により病院改革に関する研修や診療報酬（保険診療）、働き方改革に関する研修等の開催に努めた。

## 第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

### 1 経営基盤の確立

在院日数の管理と施設基準の取得を徹底することで入院単価を伸ばし、医業収支比率は上昇した。また、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる重点医療機関として病床確保に対する運営補助金を受けたため、経常収支比率は目標値を上回った。

毎月の全体会議では、診療科別収入実績をはじめ管理会計による経営指標を基にした状況説明を行った。

収支比率	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
経常収支比率(%)	111.8	101.0	104.6	3.6 ▲7.2
医業収支比率(%)	96.4	94.7	98.0	3.3 1.6

## 2 適正な収益と費用

### (1) 適正な収益

新型コロナウイルス感染症による影響は続いているものの、手術支援ロボットをはじめとした高度医療の提供により、新規入院患者の獲得に努めた。また、多様化する医療ニーズなど、医療環境の変化に対応し、在院日数の管理に努めるとともに診療報酬改定への対応と、新たな施設基準の取得に取り組むことで診療単価を伸ばし、安定的な経営に努めた。

患者数等	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
(入院)年間延患者数(人)	146,562	150,534	157,192	6,658 10,630
(入院)新規年間患者数(人)	11,691	11,923	12,485	562 794
(入院)一日平均患者数(人)	402	413	431	18 29
(外来)年間延患者数(人)	197,081	193,914	202,908	8,994 5,827
(外来)一日平均患者数(人)	814	798	835	37 21
(入院)診療単価(円)	74,960	74,772	76,336	1,564 1,376
(外来)診療単価(円)	26,285	25,688	27,231	1,543 946
病床稼働率(%)	65.7	67.5	70.5	3.0 4.8
平均在院日数(日) ※診療所を除く	11.5	11.5	11.5	0 0

### (2) 適正な費用

診療報酬請求に繋がる施設基準の維持・取得に向けた人員配置など、運営上必要な人員の確保を行った。

抗がん剤治療に用いる高額医薬品の使用量が増加したことに加え、原材料が高騰したが、医薬品ベンチマークシステムを参考に価格交渉することで、適正価格の維持に努めた。

診療材料費についても医薬品同様に価格交渉を行ったことで、費用の増加を抑えた。

①適正な人件費比率の確保

人件費比率	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
人件費比率(%)	52.2	52.4	50.7	▲1.7
				▲1.5

②物件費の節減

物件費比率	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
薬品費比率(%)	18.6	18.7	20.1	1.4
				1.5
診療材料費比率(%)	14.5	14.1	13.4	▲0.7
				▲1.1

後発医薬品使用率	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
後発医薬品使用率(%)	88.3	90.0	87.3	▲2.7
				▲1.0

③施設の計画的な維持管理

施設整備投資額	令和3年度 実績値	令和4年度 目標値	令和4年度 実績値	目標値差
				前年度差
施設整備投資額	133	299	239	▲60
				106

## 第5 その他業務運営に関する重要事項

### 1 地域医療構想の実現に向けた取組み

医療需要に応じた病床の機能分化と地域完結型医療を実現するため、佐世保県北医療圏において、当院の必要な役割である高度急性期及び急性期医療の提供を行うために必要な設備投資、人材確保と育成、医療安全対策に努めた。また、持続可能な地域医療提供体制を確保する必要から作成が求められている、公立病院経営強化プランの策定に向けた準備を行った。

### 2 働き方改革の推進

前年度より引き続き、勤務医等の負担軽減のための検討委員会と医師の働き方改革プロジェクト会議を開催し、多職種のタスクシフティング、シェアリングを推進し、2024年度の医師の時間外規制適用に対応すべく様々な取組みの検討・実施を進めた。

特に医師の勤怠管理については、システムを用いた時間外勤務等の管理を行えるようになった。このことにより、医師本人がタイムカードの情報を含めた時間外勤務時間等の勤怠情報を、随時確認できるようになった。

また、令和5年3月にICU、HCUの宿日直について労働基準監督署へ断続的な許可申請を行ったところであり、令和5年度早期に内科、外科、小児科の宿日直についても申請を行う準備を進めた。

### 3 新興・再興感染症への対策と対応

感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症に対し、県・市をはじめとして、医師会や地域の医療機関と連携し、正確な情報を迅速に収集するとともに、中等症以上の患者に対応すべく必要に応じた対策、体制整備を図ることができた。また、全職種が共通認識を持って対応できる教育体制と医療人としての強い意識の維持に努めた。

## 6 その他佐世保市地方独立行政法人法の施行に関する規則で定める業務運営に関する事項

### 1 人事に関する計画

独法後7年を経過した中、法人の運営上佐世保市より継続して本院1名、宇久診療所2名の職員派遣を受けている。

病棟の2交代制への変更を行うために、看護師の増員と職員のコンセンサスを得るよう調整を進めた。また、働き方改革に伴うタスクシフトとして医療技術職の増員、強化に努めた。

病院運営とガバナンスを分けるために組織図を見直し、効果的かつ効率的な組織運営体制を強化した。

### 2 施設及び設備に関する計画

(単位：億円)

施設及び設備の内容	実績	財源
医療機器等整備事業	7.4	佐世保市長期借入金、自己資金
施設維持改修事業	2.4	佐世保市長期借入金、自己資金

### 3 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画

実績なし